



百練太鼓



流し踊り



サンバパレード



イメージキャラクター  
"たたらん"

# 第35回 たたら祭り

8/3日(土)・4日(日)

8月3・4日、市役所前通り（宵祭り）会場とオートレース会場（本祭り）で開催。約6,000人が参加した流し踊りや花火大会などたくさんのイベントが行われ、2日間で25万人を超える人出でにぎわいました。



子どもチャレンジ広場



花火大会



クリーンボランティア

市制施行80周年  
記念イベント



大人みこし



オートレース会場



### 川口市平和展

7月20日～24日、中央図書館とメディアセブンで開催。「時代の移り変わりを通して」をテーマに、決して忘れてはならない戦争の悲惨さ、平和の尊さを訴える展示や映画上映が行われ、多くの市民が訪れました。



### 川口市少年少女消防体験教室

7月25日に消防局で開催。小学5・6年生28人が参加し、はしご車への搭乗や消防服を着てポンプ車からの放水訓練などを体験しました。



### 川口国際文化交流フェスティバル2013

7月27・28日にリアなどで開催。ハンガリーの子ども民族舞踊アンサンブル「チラグセム」と西地区のみなさんがみこしを担ぐなど、国際色豊かな文化交流を楽しみました。

## ひと・歴史・かわぐち Vol. 9

このコーナーでは「川口宿 鳩ヶ谷宿 日光御成道まつり」に登場した川口ゆかりの人物を紹介していきます。

### 大慈大悲に住して

熊沢 忠勝

今回は、江戸時代初期、龍派禅珠りゅうはだしのによる長徳寺の中興に功をなした、芝村の代官熊沢忠勝をご紹介します。

「早く熊三左に往きしんず晨炊有り」。

前号でご紹介した龍派禅珠の『寒松日曆』慶長18年(1613)正月4日のくだりです。熊三左とは熊沢忠勝のこと。晨炊とは朝食のこと。親しさが薫ります。

熊沢忠勝は、三郎左衛門尉と通称した芝村の代官。忠勝の父が龍派禅珠の師の弟子として遇されていたことから、龍派と親密な関係にあり、『寒松日曆』にも、たびたび登場します。その親交は、慶長年間の二度にわたる火災で焼失した長徳寺本堂の再建、同寺円通殿観音堂・同仁王門の建立、梵鐘の寄進など、龍派が住持(寺院の主僧)を務めた長徳寺への功として今に伝わります。

忠勝の生涯の中で最大の事件。それは、元和9年(1623)、江戸キリシタン殉教事件への娘お夏(洗礼名:るひいな)の連座でした。龍派の奔走でキリスト教棄教と龍派による保護観察を条件に助命されたお夏。忠勝はお夏を5年の間、幽閉します。幕府をはばかりながら生きる親娘の心の中はいかばかりだったでしょう。お夏の母は、墓も過去帳の名も残っていません。

正保元年(1644)、忠勝はその生涯を閉じます。以降、熊沢氏は忠徳、良泰の3代に渡り代官を務めますが、元禄2年(1689)、良泰が罪せられたのち、家は断絶となりました。封建の世を生きた忠勝。長徳寺に並々ならぬ功德を手向けた深い慈悲心は、南北朝時代から続く古刹に、今も息づいています。

参考文献「川口市史通史編上巻」1988、川口市教育委員会編 埼玉新聞社  
「訓譯寒松日曆」2002 沼口信一、川口大百科事典刊行会



江戸時代には徳川家から40石の寺領が与えられていた。  
【臨濟宗幻住派大智山長徳寺】:大字芝6303